

筑波研究学園都市研究所・大学関係 9 条の会

9 条の会 ニュース

NO. 15 2007. 12

名称：筑波研究学園都市研究所・大学関係 9 条の会

郵便振替口座番号：00120-4-501101

発行責任者：茅野徳治：TEL / FAX 029-857-6593

〒 305-0023 つくば市上の室 1829-1

第 5 回講演と対話の集い

「北東アジアの平和の構築と9条の役割」という講演を 進藤栄一教授から聞きました。

2007年12月2日（日）に、進藤栄一教授（筑波大学名誉教授、江戸川大学グローバルアジア・センター長教授）を招いて講演と対話の集いを行い、42名の聴講がありました。講演では次のような点が話されました。

私は、8年間、並木に住んでいて子供たちも地元の学校を出た。ふるさとに戻って話している感じだ。

9条は、「アジアとは関係ない」という論があるが、嘘でまったく根拠がない話だ。政治、外交をみる時、外側からではなく、内側から見るべきである。9条は、世界史の流れの中からできたし、日本人の手で作られたものである。映画「日本の青空」に描かれているように、鈴木安蔵、高野岩三郎などの勉強会が軸となっている。義務教育の無償化、婦人参政権など日本人の質の高さを示している。今、「9条の会」が6000以上もできて活動していることが、日本の歴史を変えつつある。こうして、下からの動きが政治を動かしつつある。

21世紀は「不戦の世紀」である。情報化が地域間距離をゼロにした。いまや、車1台作るのに東アジア8カ国で作られている時代（ネットワーク分業の時代）です。そういう経済的相互依存関係が戦争をできなくしている。投資も含めてアジアへの巨大な流れは不可避な時代になります。また、安全保障についても、環境や食料、エネルギーといった非軍事的課題が中心を占め、国

家間の相互依存が進化し、お互いの共存関係が大きなウエイトを占める仕組みになります。ブッシュやブレアのような、好戦勢力は時代遅れとなっている。まさに、「歴史の終焉」といってよい。軍事力が意味を持たない、国境を低くするほうがよい時代である。私は、かつて「アメリカの黄昏」という本で「帝国は暴力的に崩壊する」と書いたが、そのとおりになっている。

私が、1998年夏に北朝鮮を訪問した直後にテポドンが発射された。それを口実に脅威論が高まり、ミサイル防衛（MD）計画が出てきて、3兆円をめぐる防衛省の守屋スキャンダルにつながっている。

来年の米大統領選以後、米朝国交回復になるだろうといわれている。すでに、ピョンヤン行きの200人乗りの旅客機は、アメリカのビジネスマンで満席だという。日本は、そういうアメリカの後追い外交になるだろう。日本人はアメリカコンプレックスをなくさなければならない。北朝鮮問題を解決するのは10-20年かけてで、韓国と一国2制度などの方式で進んでいくのではないか。

東アジア共同体を実現すべく努力しているが、北東アジアというと北朝鮮、韓国、中国も含むことになり現実性がない話だ。アセアン10カ国は1967年にTAC（平和友好条約）を作り、戦争をしない、非核平和、内政不干渉を哲学にしている、共同体の「運転手」としてプログラムを着々と進めている。それに、日、中、韓の+3が含まれることが重要です。「東アジア共同体評議会」

は中曽根康弘氏が代表だが、彼はアメリカに嫌われ、新しいアジア主義者として評価している。アジアには、共通の文化がある。韓国の儒教の文化は日本の文化の原点です。戦わないで勝つことが孫子の兵法としているのはアジアに共通の思想です。もっとアジアに目を向けなければいけないと思います。

資料として、週刊金曜日(2007. 10. 19 675号 p. 20-22)「進藤栄一氏に聞く、アジアに向かう歴史的トレンドでは、非軍事的価値こそが重視される。対米従属では未来は切り開けない」が配られました。

(岡田安正)

第5回講演と対話の集いに参加して

今回の集会では司会者の一人として参加したこともあり、反省の意味も込めて私感を書いてみました。

今年の1月と6月に話された、「北朝鮮問題と憲法9条・・・」、「世界の中での憲法9条・・・」という話題の続きとして、「北東アジアの平和の構築・・・」というテーマならば一貫性があり、活発で実りのある対話が可能ではないか、と思っていましたが、この期待は実現しなかったようです。

進藤氏の講演では、初めに現憲法の重要性が語られ、グローバリズムの問題点の指摘、小泉、安倍内閣についての小気味良い批判があり、豊富な知識と多くのエピソードを交えての話は多岐にわたっていて、流石に精力的に活動している国際外交史の教授と感じました。

しかし、タイトルの「北東アジアの平和・・・」に関しては殆ど言及されなかったし、話しの内容も概して既存の知識の紹介に終始して、複雑な国際情勢についても客観的な分析による独自の深い専門性が感じられなかったのは残念でした。聴衆と講師の相互の対話に発展するような、本質的な問題の提起もされることが無く、「講演と対話の集い」の難しさを改めて感じました。

改憲論者の代表の一人でもある、中曽根康弘氏が主催する会(?)に積極的にコミットしているということも、気になることでした。

講演冒頭では、あたかも平和運動がつくばには全く無かった、と言うような「つくばでも9条の会が出来るようになって云々・・・」という発言にも、驚かされました。実は今回、講演が始まる直前の活動報告では、これまでの「講演と対話の集い」の内容として、「研究所の平和宣言運動」、「軍事研究拒否の問題」等についても簡単に紹介されていたのですが・・・。

進藤氏は1975～2003年まで筑波大に所属し、つくば市にも在住されていたはずですが、今から20年前に起こった1987年「研究所の平和宣言運動」のことは全く気づかず、意識すらしていなかったのでしょうか。これに関連して、筑波大での日頃の平和、社会に関する活動状況についても質問してみたのですが、時間が無くて実現しなかったのは残念でした。

ともあれ、憲法9条を守るという一点で力をあわせる、という会の目的からすれば、いろいろな立場の人の話しが聞けたということは、それなりに意味があったと思います。(上原 満)

第5回講演と対話の集い

アンケート回答一覧

1. 今日の「講演と集い」は如何でしたか、ご感想をお聞かせ下さい。

- ①大変参考になりました。
- ②非常に良かった。
- ③岡田さんからメールで知りました。大変興味深かったです。東南アジア特にシンガポールが大きな核になって、競争を前提としない、発展がすすみ平和になるということ、少し楽観すぎるかもしれませんが、かなりもっともな実現可能なものではないかと思います。
- ④勉強になった。特に21世紀はアジアの時代、不戦の時代が印象に残った。
- ⑤あまりにも話があちこちに飛びすぎ、それでいて結論だけ(キーワードだけ)がちりばめられていて、理解を迫るのに、いささか困難であった。北朝鮮問題は既に終わっているという評価は同意できる面があるが、他方北東アジアの平和機構が難しいというのは意外な回答であった。
- ⑥大変勉強になり良かったです。

- ⑦・テーマは良いと思ったのですが？
 - ・話術は申し分ありませんでしたが、論旨がよく理解できなかった。
 - ・自マン話が半分になれば、もう少し中味のある話しになったのでは？（無理かな）
 - ・次のチカラになる話しがほしかった。大勢の人が集まってくれてよかった。
- ⑧進藤氏の率直なお話しは型通りでない分、興味をひくもので、よかった。情報を上からながめるのではなく、視点の重要さを強調されたのは日々の情報と向き合う上で大いに重要なことと実感した。

2 憲法9条についてのお考えがあればお聞かせ下さい。

- ①地球規模でものごとを考える時代であり、軍備、戦争は愚の骨頂となっている。9条は世界の規範となるよう努力しなければならない。
- ②絶対に守るべき。
- ③知る権利との不可分さを私は重要と思います。
- ④絶対に変えない。

3 今後、話を聞いてみたいテーマ、または、希望する講師がございましたらご記入してください。

- ①シンガポール、コスタリカ、サンマリノなどに長く住まれた方などの話。
- ②研究機関9条の会でもあり、環境問題（地球の汚染）又、地球規模の貧富の拡大、格差の増大についても議論できれば有益でないかと思います。軍事技術関係の話にも関心があります。
- ③今日のテーマと同じものを他の講師に聞けると面白いと思いました。
- ④小森事務局長（9条の会）。

4 憲法9条を変えさせないために、どうしたらよいと思いますか？

- ①地球環境の悪化が進んでいる。人類の優先課題は環境であり、軍備、戦争の愚かさを周知しなければならない。
- ②やはり知る権利をたしかなものにする事ではないでしょうか。
- ③賛同者をもっと広げていくことが大事。
- ④憲法25条を守る（非正規雇用を減らす）。正しい歴史を学ぶ（教科書には

真実を記す）。

- ⑤・老人党いわく「良くない政治家を当選させない運動が大切」、良くない政治家＝憲法9条を改悪し、戦争をさせようとする政治家。
 - ・9条改憲の政治家に投票しない人を増やす運動。
- ⑥近隣9条の会との共同開催など工夫し、チャンスをとらえた企画を（十分に広がりを図った準備など）。

5 筑波の研究所・大学関係9条の会へのご要望、ご意見などがありましたら、ご記入下さい。

- ①筑波大からの寄与が望まれます。大学人としての責任が問われるところです。又、学生参加が大いに望まれます。
- ②さらに目に見える姿での活動、アピール、たとえば今日の行事なんかも広く、つくば、牛久、土浦くらいまで、ミニコミ誌などにもものせていくなど、すそ野を広げるように努力を期待します。（事務局から毎回常陽リビング、くらしの情報欄に載せています）

以上

07年12月10日現在

賛同者数 817名（0名）

（ ）内は前号以降の増加数

事務局だより

○本会では「筑波研究学園都市研究所・大学関係9条の会アピール」への賛同署名を広くお願いしています。

http://peace.arrow.jp/tsc/i_home.php
にアクセスしてください

○9条の会ニュース等の配布は、メールアドレスを登録されている方には電子メールで、それ以外の方には郵送しております。

○「会」へのお問い合わせは

・茅野徳治：電話・Fax：029-857-6593

・e-mail：

岡田安正 spc873x9@comet.ocn.ne.jp

堀田博之 zkodaly@nifty.com

